

マラウイのコミュニティ・チャイルドケ
ア・センターの運営
—無給のボランティア保育者に着目して—

谷口 京子

広島大学

研究の背景

乳幼児ケアと就学前教育の拡充

開発目標

- 1990年万人のための教育 (Education for All: EFA) 世界会議
- 2000年「EFAダカール目標(2015年まで)」(1)就学前教育の拡大と改善
- 2015年「持続可能な開発目標：目標4」(2) 2030年までに男女区別なく、全ての子どもが質の高い乳幼児の発達・ケア、就学前教育にアクセス

早期介入の重要性

- 貧困削減
- 不平等の緩和
- 社会的・経済的コスト削減
- 身体的・社会情緒的・認知的・言語発達の助長
- 非認知能力の育成、貧困層に効果(Heckman & Savelyev, 2012)

フォーマル教育（初等教育）の準備

- 初等教育の低学年における留年や退学の減少(Kholowa & Maluwa-Banda, 2008)
- 初等教育の学業成績への影響(Taniguchi, 2022)

研究の目的

近年、マラウイで拡充しているコミュニティ・チャイルドケア・センター (Community-Based Childcare Centre: CBCCC) の運営について、無給のボランティア保育者に着目し、明らかにする

マラウイの就学前教育の普及の経緯

年	出来事
1950年	宣教師による普及、小学校の一部で、2年間 (sub Aとsub B)の幼稚園生
1960年代後半	キリスト教会 (CCAP)がフルタイムの女性のために、都市部に有償のプレ・スクールを開園
1966~1969年	ボランティアにプレ・スクールの開園 他の都市でもプレ・スクールの開園
1970年代	Ministry of Community Development and Social Welfareの支援開始。* ほぼ支援なし
1980年	UNICEFの援助で、 コミュニティ・チャイルドケア・センター (Community Based Childcare: CBCC) が3県で設立。しかし、コミュニティ参加による運営・維持が難しい
1992年	HIV/AIDSと孤児などの弱い立場の子どもたちの援助→政府はコミュニティ参加のプログラムの強調 → コミュニティ・チャイルドケア・センター (CBCC) の設立
1999年	UNICEFによるコミュニティを巻き込んだ乳児ケアのプロジェクト (一部の地域)
1990年代初	都市部に有料施設(Nursery schools, Kindergarten, playgroups, crèche)の設立
1990年代	就学前教育施設の大別されていく 都市部：有償のナーサリースクール 農村部： 無償のコミュニティ・チャイルドケア・センター (CBCC)
2003年	MoGCS & UNICEFが農村部の孤児などの弱い立場の子どもたちのための コミュニティ・チャイルドケア・センター (CBCC) (無料のフォーマル・スクール)の設立
2003年	MoGCSが初めて幼児期の発達に関する政策(National ECD Policy)を承認 2006年修正、2015年大幅な修正
2017年	National ECD Policyの完結

1990~2000年
HIV/AIDS
毎年300万人以上

1994年
MDGs, EFA
初等教育無償化

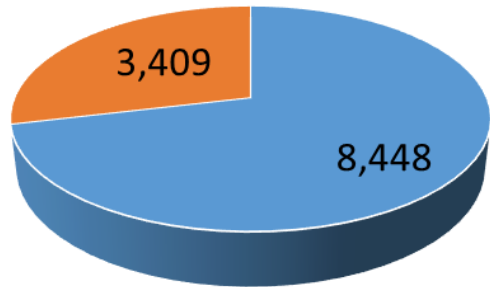
マラウイの就学前施設の種類

- 無償の施設: コミュニティ・チャイルドケア・センター (Community-Based Community Centre: CBCC)
- 有償の施設: ナーサリースクール (Nursery school)

Proportion of Public (CBCC) and Private in Malawi

Public/CBCC Private

全体

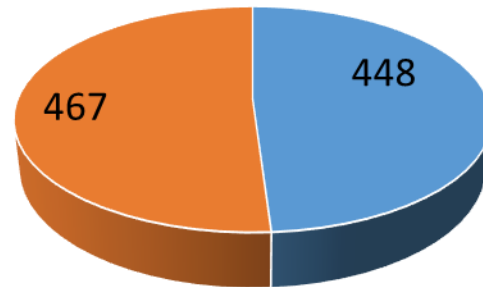


就学前施設の
7割がCBCC

Proportion of Public (CBCC) and Private in Lilongwe

Public/CBCC Private

都市部

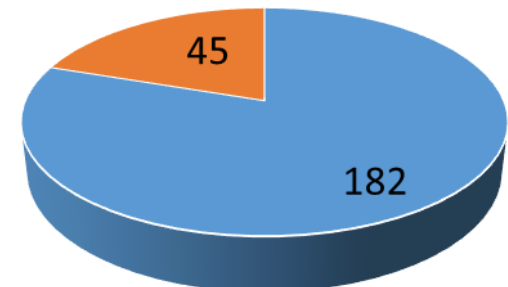


就学前施設の
5割がCBCC

Proportion of Public (CBCC) and Private in Nkahta Bay District

Public/CBCC Private

農村部



就学前施設の
8割がCBCC

マラウイの就学前施設へのアクセス

- 就学前施設の増加

7,801施設(2007年) → 12,220施設(2018年)

cf. 小学校数 : 6,194 (2017/18年)

ECD施設数の不足

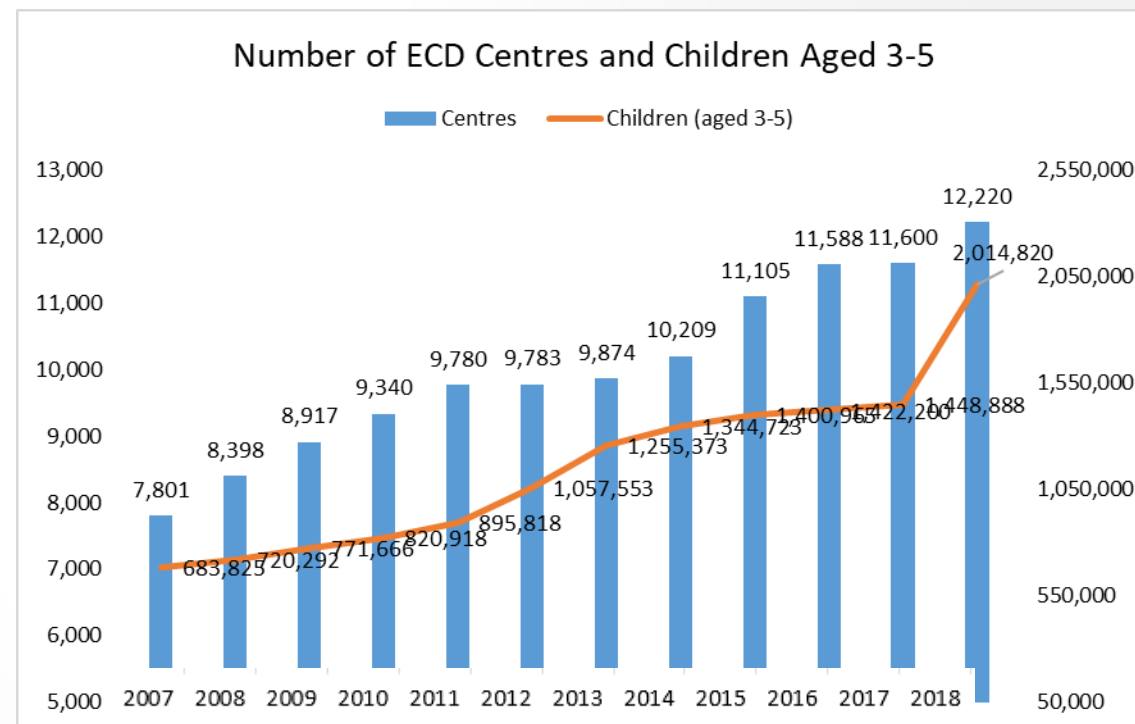
- 就学前施設へアクセスする3~5歳児の増加

683,825名(2007年) → 2,014,820名(2018年)

cf. 小学校の児童数 : 5,187,634 (2017/18年)

- 就学前施設へアクセスする3~5歳児の割合 : 48.7%(2018年)

2人に1人の3~5歳児しか就学前施設にアクセスできていない



(出所 : MoGCDSW, 2018)

マラウイの保育者の状況

トレーニングの種類

1. 14日間のトレーニング
2. 6ヶ月のトレーニング：2週間座学＋8週間ECDで実践を3回繰り返す

	全体	都市部 リロングウェ	農村部 ンカタベイ県
保育者数	35,063	2,157	595
トレーニングを受けた保育者数	16,575 (47.3%)	1,518 (70.4%)	384 (64.5%)
就学前1施設あたりの保育者数	3.02	2.36	2.62
就学前1施設あたりのトレーニングを受けた保育者数	1.43	1.66	1.69
保育者1人あたりの子ども数	41.84	90.15	52.42
トレーニングを受けた保育者1人あたりの子ども数	88.50	128.10	81.22

(出所：MoGCDSW, 2021)

保育者の不足
トレーニングを受けた保育者の不足

マラウイの就学前教育の課題

アクセス

特に農村部の割合が低い

保育者

トレーニングを受けた保育者の割合が低い

公平性

農村部と都市部の子どもたちが同じ質の就学前教育を提供できているか

運営

コミュニティのキャパシティ
コミュニティ・チャイルドケア・センター (Community-Based Community Centre: CBCC)の運営

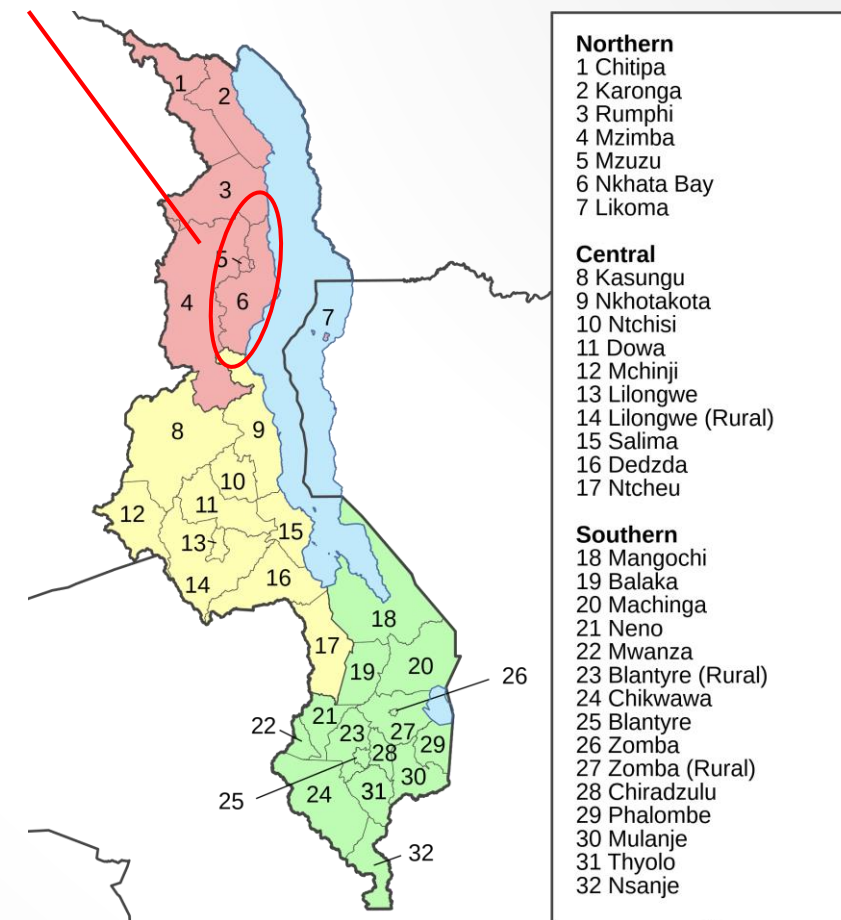
コミュニティ・チャイルドケア・センター (CBCCC)の運営

- 設立要件
 - 場所の確保
 - 保育者の確保
- 運営
 - 保育者：2～4名
 - CBCCC委員会の役員：0～10名
 - 地域の子ども保護員：1名

調査の概要

- 調査地域：ンカタベイ県
- 調査施設：コミュニティ・チャイルドケア・センター (CBCC) 10施設
- 調査対象者：**保育者24名**、子ども保護員3名、コミュニティメンバー5名
- 調査方法：半構造化インタビュー
- 調査時期：
 - 2021年10月（予備調査）
 - 2022年9月（本調査）

ンカタベイ県



インタビュー内容

項目	内容
CBCCCの状況	設立時期、施設の場所、子どもの数、子どもの年齢、保育者の数、運営時間、費用、ポリッジの有無、カリキュラム、教材など
子どもの状況	通学方法、近隣の小学校、子どもたちが行う遊びや勉強など
保育者の状況	保育者数、勤務期間、トレーニングの有無、1日の活動計画、性別、学歴、年齢、給料、 保育者になった理由、施設の運営 など
コミュニティや保護者	メンバー数、会合の頻度、サポート内容など
政府	モニタリングの頻度と内容など

分析

- ・ 主題分析：逐語録→コーディングとカテゴリー化→パターンの分析

CBCCの概要

CBCC	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
TA	M	O	O	N	N	N	M	M	M	M
設立	1999	2004	2004	2005	2009	2009	2012	2017	2021	2021
開園時間	7:30-12:00	7:30-10:30	8:00-12:00	8:00-10:30	8:00-11:30	8:00-11:30	8:00 - 12:00	7:30-11:00	8:00-12:00	9:00-11:00
園児数	48	22	42	45	74	115	47	45	35	65
保育者の数	3	2	4	4	4	4	2	2	3	4
施設	CBCC (2005年ドナー による建設)	教会	CBCC (2009年ドナー による建設)	CBCC (2011年ドナー による建設)	CBCC (2012年ドナー による建設)	CBCC (2012年ドナー による建設)	コミュニティの 建物	コミュニティの 建物	CBCC (2011年コミュ ニティによる建 設)	教会
施設費	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料
授業料	無料 ポリッジ用の 粉：50/月	無料	無料	無料	無料	無料	1ヶ月 MK1000(\$0.8)	1ヶ月 MK1000(\$0.8)	無料	無料
ポリッジ	有	無	無	有	有	有	無	無	無	無
CBCC委員会の役員数	10	10	8	0	10	10	3	10	10	10
CBCC委員会の会合の頻度	1ヶ月に1回	無	1学期に1回	無	1学期に6回	1学期に6回	無	常にWhatsApp group	1ヶ月に1回	1ヶ月に1回
コミュニティのサポート	ポリッジの準備	無	無	ポリッジの準備 清掃 施設建設	ポリッジの準備 清掃	ポリッジの準備 清掃 教材準備	無	清掃	施設建設	清掃

CBCCCの現状

- 設立：多くの施設が2003年後に建設
- 運営時間：7:30～12:00の2～3時間 時間が短い
- 子ども数：約20～70名 主に3～5歳児 ある程度の人数集まっている
- 保育者：2～4名（基本的に無給）
- 施設：全て無料で使用していた（コミュニティが簡易的に建設したもの、教会やそのキッチン、ドナーが建設したものなど、様々であった）
- 授業料：無料 or 低額
- コミュニティからのサポート：ほとんどない



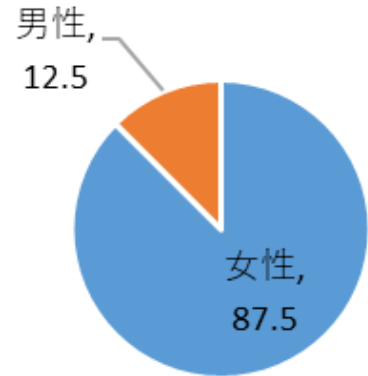
インタビュー調査した保育者

保育者	A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	C3	D1	D2	E1	E2	E3
CBCC	A	A	A	B	B	C	C	C	D	D	E	E	E
性別	女性	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性
年齢	30代	50代	20代	40代	30代	70代	30代	30代	30代	50代	60代	30代	60代
教育水準	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	後期中高等教育	後期中高等教育	初等教育	前期中高等学校	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	初等教育
勤務年数(年)	23	23	10	12	11	18	2	5	2	17	12	12	11
トレーニングの回数	2	1	無	1	1	3	1	1	無	2	3	3	3
給料	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	有	有	有

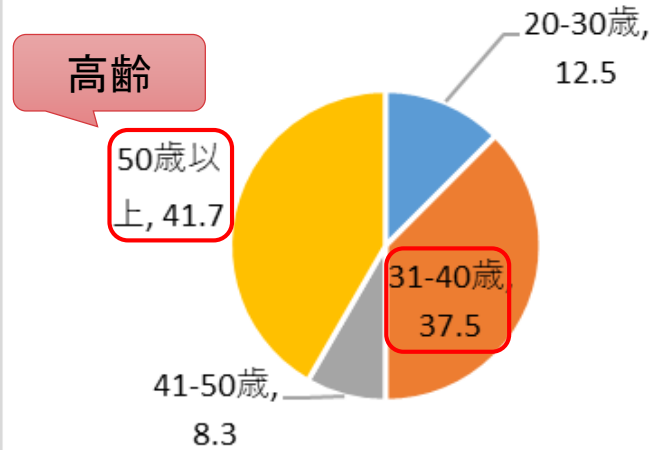
保育者	F1	F2	F3	F4	G1	G2	H1	H2	I1	I2	J1
CBCC	F	F	F	F	G	G	H	H	I	I	J
性別	女性	女性	女性	女性	女性	男性	男性	女性	女性	女性	女性
年齢	50代	40代	40代	50代	50代	30代	30代	20代	50代	50代	20代
教育水準	初等教育	前期中高等学校	前期中高等学校	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	初等教育	初等教育	初等教育	カレッジ	前期中高等学校
勤務年数(年)	6	5	5	13	22	7	2	4	1	1	1
トレーニングの回数	2	1	1	3	1	無	無	1	1	無	無
給料	有	有	有	有	無	無	無	無	無	無	無

インタビュー調査した保育者の属性

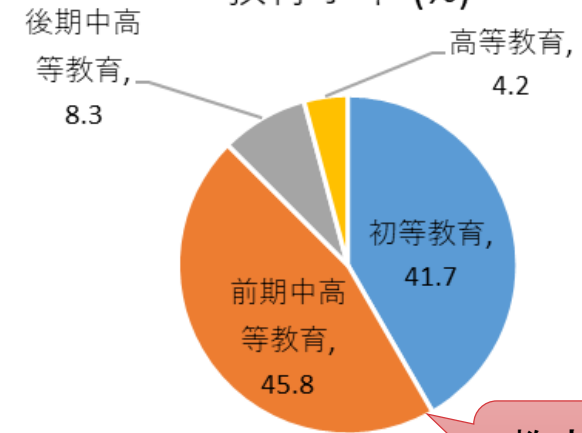
性別 (%)



年齢 (%)

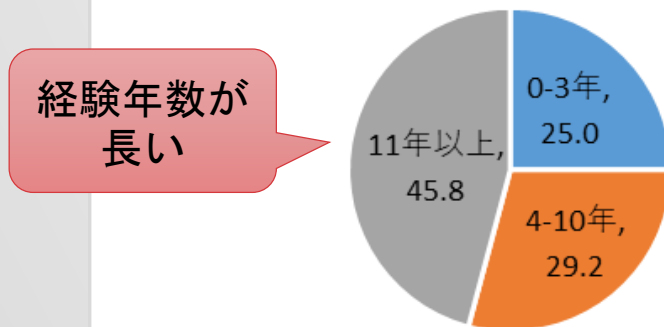


教育水準 (%)

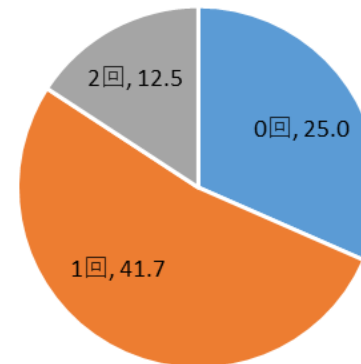


教育水準が高い

経験年数 (%)



受講したトレーニングの回数 (%)



特徴
教育水準が高く
経験年数が長い

保育者が継続して運営できる要因

1. 子どもが好きなこととコミュニティのため

- ・ 「子どもたちがコミュニティ内で遊んでいる状況を見て、子どもたちを集めて、自宅や木の下でお世話を始めた」 → 「アルファベットや数字などを教えて始めた」
- ・ 自分たちのコミュニティの子どもは、自分たちで育てるという意識が高かった

2. 就学前教育の重要性や小学校との繋がり的重要性

- ・ 就学前教育へのアクセスはまだ約半数であるが、保育者は小学校に入る前に準備をしておくことが大切であると考えていた

3. 保育者の教育水準と過去の経験

- ・ 保育者は、コミュニティの中では学歴が高く、初等学校や前期中等学校を修了していたが、初等教育の教員資格は持っておらず、小学校で働くことはできなかった
- ・ 自分が今まで経験してきた知識で保育や教育ができると考えていた

4. 保育者同士で助け合い

- ・ 多くの施設では、設立当時の保育者が中心となって運営していたが、近年、高齢になってきたため、若手の保育者が手伝っていた
- ・ 若手の保育者は、最初に創めた保育者の活動に賞賛し、サポートをしたいという思いから始めていた

5. 柔軟な施設の運営体制

- ・ コミュニティの無償の施設で無給のボランティア保育者ということで、都合に応じて休日にするのが容易であった

考察

1. 手段的支援：場所・時間・資金・人的資源・行政（米澤, 2011）
 - CBCC：場所の確保、短時間、資金なしでも可能、保育者同士の助け合い
2. 活動自体の望ましさが明確である：深刻度認知・有効性認知（安藤, 1999）
 - 就学前教育や小学校との繋がり
3. 情緒的支援：他者からの認知・地域意識・楽しみ（米澤, 2011）、感謝（Cho, et al., 2020）
 - 保育者の地域意識「コミュニティのためである」
4. 個人として得られるものがある（安藤, 1999）・参加動機要因：利他心・理念の実現テーマや対象への共感（桜井, 2005）
 - コミュニティの子どもたちを育てている
5. 個人的要因：性別・年齢・活動経験の有無（桜井, 2005）
 - 教育水準が高い
6. 状況への態度要因：業務内容（桜井, 2005）
 - 保育者は小学校の免許がないが、就学前教育の内容であるなら教授可能
7. 報酬（Cho, et al., 2020）
 - 保育者のトレーニングが受けられた
8. 計画の柔軟性（Cho, et al., 2020）
 - 柔軟な運営体制、指導内容が明確ではない
9. ボランティア動機の機能的アプローチの6つの機能要因：価値・理解・社会・キャリア・防衛・強化（Clary et al., 1998; Clary and Snyder, 1991）
 - 保育者がCBCCの活動を通して、様々なものが得られてたり、達成されている

今後

- ・ 先行研究におけるボランティア活動継続要因との比較分析
- ・ マラウイのCBCCC独自の運営継続要因の分析

参考文献

- Cho, H., Wong, Z. E., & Chiu, W. (2020). The effect of volunteer management on intention to continue volunteering: A mediating role of job satisfaction of volunteers. *Sage open*, 10(2), 2158244020920588.
- Clary, E. G., Snyder, M., Ridge, R. D., Copeland, J., Stukas, A. A., Haugen, J., & Miene, P. (1998). Understanding and assessing the motivations of volunteers: a functional approach. *Journal of personality and social psychology*, 74(6), 1516.
- Clary, E. G., & Snyder, M. (1999). The motivations to volunteer: Theoretical and practical considerations. *Current directions in psychological science*, 8(5), 156-159.
- Heckman, J., Pinto, R., & Savelyev, P. (2013). Understanding the mechanisms through which an influential early childhood program boosted adult outcomes. *American Economic Review*, 103(6), 2052-2086.
- Kholowa & Maluwa-Banda. (2008). Early Childhood Education and Development in Malawi: Major Challenges and Prospects. *The Zimbabwe Journal of Educational Research*, 20.11- 21.
- Republic of Malawi. (2017). *National Policy on Early Childhood Development*. Lilongwe, Malawi.
- Ministry of Gender, Children, Disability and Social Welfare (MoGCDSW). (2018) . *National Strategic Plan for Integrated Early childhood Development (I-ECD) 2018-2023*. Lilongwe, Malawi.
- Ministry of Gender, Children, Disability and Social Welfare (MoGCDSW).(2021). *National Syllabus for Integrated Early Childhood Development Level 1 – 3*. Lilongwe, Malawi.
- Ministry of Gender, Children, Disability and Social Welfare (MoGCDSW).(2021). List of community-based childcare centre. Lilongwe, Malawi.
- Taniguchi, K. (2022). The impact of pre-primary education on primary student achievement: evidence from SACMEQ III, *International Journal of Early Years Education*, 1-19. <https://doi.org/10.1080/09669760.2022.2137783>
- 安藤香織, & 広瀬幸雄. (1999). 環境ボランティア団体における活動継続意図・積極的活動意図の規定因. *社会心理学研究*, 15(2), 90-99.
- 桜井政成. (2002). 複数動機アプローチによるボランティア参加動機構造の分析—京都市域のボランティアを対象とした調査より—. *ノンプロフィット・レビュー*, 2(2), 111-122.
- 米澤美保子. (2010). ボランティア活動の継続要因. *関西福祉科学大学紀要*, 14, 31-41.

ご清聴ありがとうございました

Email: tanikyo@hiroshima-u.ac.jp